

ふくしまインフラメンテナンス技術者育成協議会（仮称） 設立趣意書（案）

社会インフラは、豊かな国民生活の実現及びその安全と安心の確保、環境の保全、自立的で個性豊かな地域社会の形成等に寄与する国民共有の貴重な財産である。

これら社会インフラは、高度経済成長期に集中的に整備されたことから、今後急速に高齢化が進み、その維持・修繕、更新の重要性、緊急性が全国的に叫ばれている。

さらに、昨年１１月２８日には、産学官民が一丸となってインフラメンテナンスに取り組むとともに、その理念の普及を図り、もって活力ある社会の維持に寄与することを目的として、政府が「インフラメンテナンス国民会議」を設立したところである。

このように、本格的な社会インフラの維持管理・更新時代を迎える中、建設産業全体の技術者、とりわけ維持・修繕分野においては、行政を始め、地域の建設業や測量設計業等に携わるメンテナンス技術者の人材不足が深刻な問題となっている。

また、限られた予算と様々な人的資源を有効に活用しながら、社会インフラの品質を確保し、かつ住民サービスの最大化とそれに伴う地域の活性化に寄与し、貢献できるメンテナンス技術者の確保が求められている。

このため、「県民の安全と安心を第一」に、「地域のインフラは、地域自らが守る」の考えの下、福島県の地域特性を踏まえながら、橋梁、トンネル、舗装、斜面、河川構造物等、社会インフラ全般に係る各種点検やメンテナンスに関する専門的かつ実践的な知識を有し、社会インフラマネジメントの中核となる技術者を安定的に育成することを目的として、産学官連携による「ふくしまインフラメンテナンス技術者育成協議会」を設立するものである。

平成２９年７月１１日